

# 『単位実質化マキシмумモデルの実践と普及』活動報告

松塚ゆかり（大学教育研究開発センター）

深野 政之（大学教育研究開発センター）

## 1. 本事業の概要

本取組は成績評価制度改革と、学習の質と量を向上させる教学・支援面での方策を相互に連動させ、それぞれを効果的に発揮する教育・学習実質化のためのマキシмумモデルを開発・実践・普及することを目的とした。具体的には、(1) GPA 卒業要件化とそれを支える成績評価の適正化、(2) 主体的授業参加と授業外学習を促す授業形態の開発と整備、そして(3) 上記二つを履修指導と学習支援両面から支える、きめのこまかい修学支援体制を構築し、これらを連動させることを目標とした。特に、本学で実践されている IR を強化・拡充し、上記三つの活動をつなぐカタリストとして据えることにより、各活動及び全体の効果を継続的に測定評価し、その結果を活動へと反映させる PDCA サイクルを設計、定着させることが目指された。(図1参照)

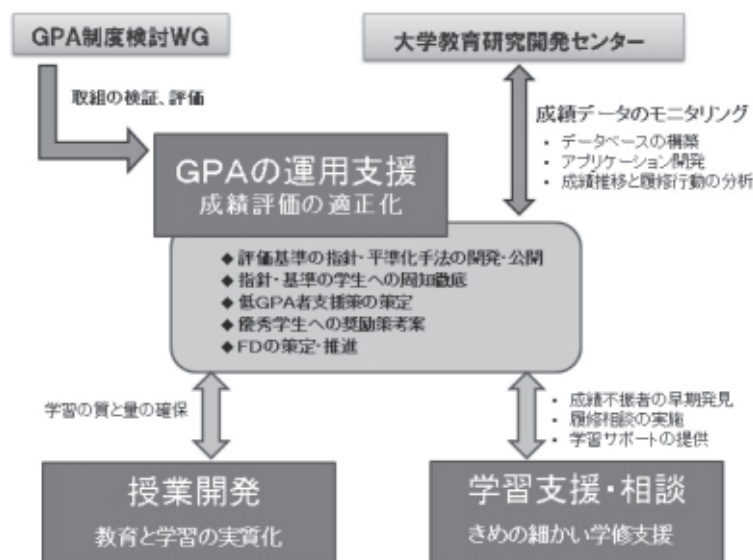


図1 GPA 運用支援の概念図

この事業は22年度の文部科学省大学教育改革推進経費を受け同年11月から活動を開始し、23年度には活動の基盤がほぼ確立された。24年度には学内の大学戦略推進経費に申請、採択されて24年度に予定していた活動を継続実行することができている。(図2参照)

	22年度	23年度	24年度
成績評価 の適正化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●卒業要件値の採用</li> <li>●評価平準化手法の検討</li> <li>●評価基準明確化のプロトタイプ作成</li> <li>●FD・勉強会の企画・開催</li> <li>●成績と履修行動のモニタリング</li> <li>●学生相談室との連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●成績データの蓄積と分析</li> <li>●評価平準化手法の研究</li> <li>●評価基準の明確化と公開</li> <li>●成績と履修行動のモニタリング</li> <li>●学生相談室との連携強化</li> <li>●GPA運用状況のデータ公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●成績データの蓄積と分析</li> <li>●評価平準化手法の普及</li> <li>●評価基準の明確化の徹底</li> <li>●成績と履修行動のモニタリング</li> <li>●学生相談室との連携強化</li> <li>●GPA運用状況・成果のデータ公開</li> </ul>
新たな 授業形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義＝演習連結型授業の拡充</li> <li>●STAの配置と講習会実施</li> <li>●双方向型授業新手法の開発</li> <li>●各授業フォーマットの効果測定</li> <li>●海外事例調査の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義＝演習連結型授業の実践</li> <li>●STAの配置と講習会実施</li> <li>●双方向型授業新手法の開発・試行</li> <li>●各授業フォーマットの効果測定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義＝演習連結型授業の実践</li> <li>●STAの配置と講習会実施</li> <li>●双方向型授業新手法の実践・拡大</li> </ul>
修学 支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●クラス別メンターによる履修相談</li> <li>●学生主体の新生向け履修ガイダンス</li> <li>●ラーニングデザイン委員会等(自習支援)</li> <li>●ライティングセンターの試行開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習相談室の開設と試行</li> <li>●学生主体の新生向け履修ガイダンス</li> <li>●ライティングセンターの試行開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習相談室の運用</li> <li>●学生主体の新生向け履修ガイダンス</li> <li>●ライティングセンターの試行開設</li> </ul>
教育調査・ 評価(IR)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●履修・成績データの分析</li> <li>●全学教育データベースの拡充</li> <li>●授業アンケートの分析</li> <li>●グループインタビュー</li> <li>●アプリケーション開発・システム開発</li> <li>●フィードバック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●履修・成績データの分析</li> <li>●全学教育データベースの拡充</li> <li>●授業アンケートの分析</li> <li>●質問紙調査</li> <li>●データ加工システムの開発</li> <li>●フィードバック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●履修・成績データの分析</li> <li>●全学教育データベースの拡充</li> <li>●授業アンケートの分析</li> <li>●データ抽出・加工システムの開発</li> <li>●分析モデルの開発</li> <li>●フィードバック</li> </ul>
全体	シンポジウム	中間評価	総合評価

図2 各年の活動内容

24年度は成績評価の適正化、新たな授業形態の開発、修学支援、IRの全領域において、今後の継続性を確保するために活動を定着させる体制作りに主眼が置かれた。

学習相談コーナー、「レポート・論文の書き方」講習会等については前年度までの活動を引き継ぎ、着実に取り組んできた。授業開発活動については、平成24年度は数学分野での開発に焦点をあてるとともに「数学共通基礎科目の質問コーナー」にSTAを配置する試みが行われている。IRにおいては、GPA制度の運用をより強力に支援すべく、教務データの他各種教学関連データの抽出、加工方法を開発するとともに、データ分析の量と密度を大幅に拡大した。特に23年度に開発したデータ配送システムを活用して、また学内の教育専門委員会を通して、データや分析結果を共有する体制を整えた。詳しくは、次ページ以降に各担当者より詳細な報告を掲載する。

本取組を通して実践された主な活動は、平成24年度に創設された、学生の自律的学修を支援・促進する全学的組織である、「アカデミック・プランニング・センター (APLAC)」において発展的に継承され、拡充されることとなる。